

長野市誌 第七卷 歴史編 現代

目次

口絵

刊行のことば

長野市長 鷲澤正一

緒言

例言

第一章 敗戦後の市政と市町村民

第一節 占領下の市町村民

一 敗戦による市町村政

長野軍政部の進駐と市町村

公職追放と首長・議員選挙

市町村財政の窮迫と天皇の巡幸

県庁舎別館の火災と分県論の再燃

二 政治の民主化への動き

政党の復活と婦人参政権の実現

国家地方警察と市消防の発足

第二節 農地改革と農業の民主化

一 農地改革による自作農の誕生

四一

一	農地改革の実施と成果	農地委員会と農地買いあげ問題	四
二	食糧増産と農業への期待	食糧供出と増産対策	六
		農業生産とりんご景気	六
		農家経済と農業協同組合	六
第三節	商工業の復興と交通の整備		三三
一	商工業・金融業の復興への動き		六三
	商工会議所の成立と活動	新円発行と金融業	六三
		工業の復興	六三
二	交通・通信の整備		七九
	交通機関の混乱と再建	郵便と電信・電話の整備	七九
第四節	戦後社会の混乱と社会運動		八九
一	インフレと市町村民の生活		八九
	インフレ・食糧危機と住民の生活	復員・引き揚げと疎開者の動き	八九
二	民主化への胎動と福祉		一〇〇
	労働組合の結成と労働運動	青年団の再建と活動	一〇〇
	部落解放県連合会の結成と解放運動	婦人会の復活と社会参加	一〇〇
		生活困窮者対策と民生委員	一〇〇
		児童福祉施設の開設と拡充	一〇〇
三	災害と防災		一三三
	学校など公共物の焼失	キティ台風と裾花川の決壊	一三三

第五節 戦後の教育改革と文化活動	二四一
一 教育の民主化と新しい教育制度	二四一
軍国主義と国家主義教育の排除	二四一
新しい教育制度の発足	二四一
教育委員会の発足	二四一
二・一ゼネストと教育界	二四一
二 新しい教育のうねり	二四二
新教育課程と実験学校・教育研究	二四二
東海北陸地区研究集会と長野市教育研究集会	二四二
PTAの発足と学校給食	二四二
信州大学と長野県短期大学の発足	二四二
教育会の改組と教員組合の結成	二四二
三 社会教育の進展	二九〇
長野日米文化センター	二九〇
公民館の発足とその活動	二九〇
成人学校とPTA母親文庫	二九〇
四 学問・報道・信教の自由	二四四
新聞・雑誌の統制解除と民間放送の開始	二四四
神道指令と神社	二四四
キリスト教の再出発	二四四
善光寺の法人化と仏教界	二四四
五 市民の文化活動と娯楽・スポーツ	三三三
長野平和博覧会の開催	三三三
文化活動の盛況	三三三
野球の盛況とスポーツの復活	三三三

第二章 市町村合併と高度経済成長期の長野市……………三七

第一節 市町村合併の進展……………三六

一 市町村合併の進展……………三六

長野市周辺一〇カ村の編入合併 篠ノ井市の設置と更級郡下の町村合併

埴科郡松代町と周辺六カ村の合併 上高井郡若穂町の設置 長野市ほか一市三町三カ村の大合併

二 拡大する市政の展開……………三五

市議会議員選挙と市議会の動き 大合併直後の市政と市財政の課題

国警察・自治体警察の統合と県庁舎の完成 刑務所の移転と跡地の官庁舎建設

長野飛行場の建設問題とヘリポートの設置 大峰城と地附山・飯綱高原の観光開発

市民会館・新市庁舎・蔵春閣などの建設 橋梁の架設と長野駅周辺区画整理事業

し尿処理施設と大峰斎場の建設

三 社会福祉と医療……………三〇一

老人福祉施設とリハビリ施設などの開設 医療と保険 保育園と保育所の増設

第二節 商工業の発達と農村の市街化……………三六

一 好況のなかでの商工業……………三六

長野産業文化博覧会の開催 工業の発達と在来産業 商工会議所と商業の発展

二	高度経済成長期の農林業	三三二	
	農業の合理化と都市計画事業	米の生産調整と農協合併	林業の危機と再編
三	需要の増す用水確保	三六六	
	笹平・小田切・裾花ダムの建設	善光寺川中島平農業水利改良工事業	上水道の野尻湖引水
四	交通・通信の発達	三六〇	
	列車・バス輸送の拡大	交通問題と安全確保・道路整備	電信・電話と有線放送の普及
第三節	市民生活の変化と災害	三七七	
一	生活の変化と自治活動	三七七	
	景気の変動と生活の変化	公営住宅の建設と団地造成	売春禁止法成立とトルコぶろ問題
	暴力追放運動と市民		
二	人権を守る運動	三九九	
	公害の発生と対応	差別撤廃運動と同和教育	
三	市民運動の高まり	四一三	
	青年団と婦人会などの活動	労働運動と社会運動	
四	松代群発地震の発生と豪雨災害	四一九	
	松代群発地震の発生	台風・集中豪雨と地すべり被害	

第四節 高度経済成長期の教育と文化 …… 四四三

一 教育制度の改変 …… 四四三

教育制度の改変と教育界の対応 …… 幼児教育と幼稚園教育 …… 給食・教育センターと高原学校の拡充

二 学校の統廃合と新設 …… 四四六

小・中学校の統廃合と諸問題 …… 私立高校の新設と県立高校の統合・移転

養護学級と盲・ろう・養護学校の新設 …… 国立長野高専と私立短大の新設 …… 各種学校と専修学校

三 社会教育の充実 …… 四九六

地域公民館のひろがりと成人学校 …… 活動の本質を模索するPTA活動

四 スポーツ施設の整備と活用 …… 五〇六

市民プールとグラウンドなどの建設 …… スキー場の開設と市民体育祭のはじまり

五 報道・芸術・娯楽・宗教 …… 五二八

信濃美術館の建設と文化団体の活動 …… テレビ放送と東京オリンピック

地区の文化活動と野外劇場・映画館 …… 長野びんずるとレジャーブーム …… 宗教界の動向

第二章 低成長期の長野市と福祉の整備	五三三	
第一節 石油危機と市民生活	五四四	
一 石油危機と市の行財政	五四四	
狂乱物価と市財政	市民生活と消費者運動	行政機構の改革
市議会の動きと県議会・国会議員選挙		
二 都市整備と国際交流	五六二	
長野電鉄の地下鉄化と長野大通り	姉妹都市・友好都市との国際交流	
第二節 社会福祉の整備充実	五七三	
一 老人福祉と障害者福祉	五七三	
老人福祉と老人憩の家	障害者福祉と施設	
二 子どもと福祉	五八一	
児童館の設置と運営	子ども医療・交通共済と働く婦人の家	
三 人権尊重と健全育成	五九一	
同和教育の推進と部落解放都市宣言	青少年健全育成と関連施設	
四 都市生活のうるおい	六〇四	
野外彫刻設置と観光地整備	上水道と下水道の設置拡張	

第三節 産業・交通の変貌と災害……………六七八

一 商工業の振興……………六七八

商工業の推移と新しい工業団地 カネボウ綿糸長野工場の跡地利用

二 農林業の課題……………六三九

減反政策と水田の転用 農業協同組合の合併と現況 松くい虫の山林被害と林業育成

三 交通の整備……………六四七

橋梁の架けかえ 交通網の整備 さわやか日替わり通勤運動

四 災害・事故の発生と防災……………六五四

地附山地すべりの災害 台風と集中豪雨の被害 火災と防災体制の整備

第四節 教育と文化……………六七八

一 学校教育の課題と対策……………六七八

小学校の新設・閉校問題 高校の新設と私立高校の変貌

二 文化施設の充実と文化財保護……………六八六

市立博物館と少年科学センターの開設 茶白山自然史館・動物園・恐竜公園の開設

市立長野図書館・南部図書館などの開設 真田宝物館の開館と文化財

三 スポーツとまつり……………七〇六

第四章 冬季オリンピックと長野市……………七二九

第一節 市の行財政と市民生活……………七三〇

一 市行財政の推進……………七三〇

拡大する長野市の行財政 第二庁舎の完成と市制九〇周年記念

中核市のスタートと長野広域連合 都市景観の保全・形成と緑化の推進

二 福祉と市民生活……………七三四

市民病院の設立と松寿荘の再建 ごみ問題と清掃工場などの建設 高齢者福祉事業と介護保険事業

交通安全都市宣言とスパイクタイヤ市内禁止 同和対策・同和教育と人権問題

第二節 冬季オリンピックの開催……………七三五

一 冬季オリンピックの招致……………七三五

冬季五輪招致委員会の結成と活動 開催都市長野市の取りくみ

二 冬季オリンピックとパラリンピックの開催……………七三七

オリンピック冬季大会の開催 パラリンピック冬季大会の開催

一校一国運動の推進と国際親善活動

第三節 産業・交通通信の発達と課題……………八一九

一 産業の発達と課題……………八一九

卸売市場の移転 郊外大型店と市街地の再生 農業の災害補償

二 交通通信の発達……………八三五

通信情報の高度化と市民生活 長野新幹線と長野自動車道の開通

長野駅東口整備と中央通りの改修

第四節 教育と文化……………八五八

一 学校教育の課題と社会教育……………八五八

大規模校の解消と小規模校の統廃合 いじめ・不登校などと教育相談

学校五日制と特色ある学校づくり 公民館と生涯学習の展開

二 文化財保護と記念事業……………八八五

善光寺本堂の大修理と松代城復元工事 松代大本営地下壕の保存公開と平和運動

市制百周年記念事業と各地区の活動

三 スポーツと報道……………九〇三

長野オリンピック記念長野マラソンの開催 民間放送局の開局と放送の多様化

あとがき

近現代史専門部会部員・調査執筆員

執筆分担

監修者

刊行委員

編さん準備委員

編さん委員

調査協力員

事務局・編さん室職員

第一章 敗戦後の市政と市町村民